

# 精神障害者スポーツ実態調査研究事業 平成23年度報告書

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

# 目 次

I	はじめに	1
II	報告の概要	3
III	精神障害者のスポーツ参加の現状	7
	1 障害者自立支援事業所	
	2 障害者スポーツセンター	
	3 都道府県・指定都市障害者スポーツ協会	
IV	精神障害者のスポーツ参加の効果(障害者自立支援事業所調査より)	19
V	精神障害者のスポーツ施設利用上、指導上の配慮と留意点 (スポーツセンター調査より)	23
	1 施設利用に際しての配慮	
	2 指導上の配慮・留意点	
VI	まとめ	31
VII	資料	
	1 参考資料	36
	2 調査票	39
	3 アンケートの結果	47
	4 委員名簿	55
	5 会議開催概要	55

## I はじめに

平成23年8月にスポーツ基本法が施行され、その前文には「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利である」と明記されている。またスポーツ権や障害者スポーツの支援についても明記され、具体的な施策の検討が進められているところである。

障害者のスポーツの推進のためには、その実態をできるだけ明らかにしておく必要があるが、まだ実態が十分把握されていないのが現状である。なかでも、精神障害者のスポーツについては、障害者のスポーツ振興に大きな影響力のある全国障害者スポーツ大会の正式競技としてバレーボールが加わったのが平成20年からであり、これを機に地域における精神障害者のスポーツの参加機会が広がっているものの、個人競技も含め、精神障害者の全般的なスポーツ活動の実態を示す全国的な調査が行われていないのが現状である。

そこで、精神障害者のスポーツへの参加機会を拡大するとともに、今後の全国障害者スポーツ大会開催要綱の見直しに向け、精神障害者のスポーツ活動の現況を把握するため、調査研究委員会を組織し、平成23年度から3か年計画で調査研究を行うこととした。今年度は、精神障害者を地域で支援する事業所、障害者スポーツを推進する障害者スポーツセンター及び都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ協会を対象に実態調査を行った。次年度は精神障害者のスポーツをより具体的詳細にわたり調査、さらに最終年には全国障害者スポーツ大会への新たな競技への参加の可能性も含め検討を進めていく予定である。

今回の調査では、スポーツ現場からの意見や情報として、精神障害者にスポーツを導入する際の留意点や工夫など、現場の指導に役立つ内容も含まれている。本書を障害のある人々のスポーツへの誘いや、生涯スポーツの実践に役立てていただくとともに、障害者のスポーツに関わる多くの方にその活動の参考にしていただければ幸いである。

また、本調査にあたりご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。本調査の結果を各所における今後の事業の推進のためにお役立て頂ければ幸いである。

平成24年3月

公益財団法人日本障害者スポーツ協会  
常務理事 吉田 秀博

## Ⅱ 報告の概要

## II 報告の概要

事業名	平成 23 年度精神障害者スポーツ実態調査研究事業																							
目的	<p>全国障害者スポーツ大会では、平成 20 年に精神障害者が参加できる競技としてバレーボールが正式競技になった。今後さらに精神障害者のスポーツへの参加機会を拡大するため、障害者のスポーツ振興に大きな影響力のある全国障害者スポーツ大会に精神障害者の個人競技・種目の導入を検討する。3 年計画で調査を行うが、23 年度は初年度調査として、地域における精神障害者のスポーツの実態を明らかにすることを目的とする。</p> <p>平成 23 年度：全国の関係機関に対するアンケート調査。 平成 24 年度：活動現場における聞き取り調査等。 平成 25 年度：全国障害者スポーツ大会への導入にふさわしい競技・種目の絞り込み、導入のための配慮点をまとめる。</p>																							
調査対象と回答率	<p>① 地域で精神障害者を支える障害者自立支援事業所（調査 1） ② 障害者スポーツを推進している障害者スポーツセンター（調査 2） （笹川スポーツ財団による障害者スポーツセンター一覧より） ③ 都道府県・指定都市障害者スポーツ協会（調査 3）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査対象</th> <th>送付数</th> <th>有効回答数</th> <th>回答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 障害者自立支援事業所</td> <td>886</td> <td>446</td> <td>50.3%</td> </tr> <tr> <td>② 障害者スポーツセンター</td> <td>104</td> <td>57</td> <td>54.8%</td> </tr> <tr> <td>③ 障害者スポーツ協会</td> <td>67</td> <td>54</td> <td>80.6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,057</td> <td>557</td> <td>52.7%</td> </tr> </tbody> </table>				調査対象	送付数	有効回答数	回答率	① 障害者自立支援事業所	886	446	50.3%	② 障害者スポーツセンター	104	57	54.8%	③ 障害者スポーツ協会	67	54	80.6%	計	1,057	557	52.7%
調査対象	送付数	有効回答数	回答率																					
① 障害者自立支援事業所	886	446	50.3%																					
② 障害者スポーツセンター	104	57	54.8%																					
③ 障害者スポーツ協会	67	54	80.6%																					
計	1,057	557	52.7%																					
調査期間と方法	平成 23 年 9 月 29 日から平成 23 年 10 月 26 日 留置郵送法、自記式（選択および自由記述式）																							
スポーツ参加の現状																								
<p>■障害者自立支援事業所 ( ) 内は実数</p> <p>① 日課内での運動プログラムの実施は 63.7% (282) である。</p> <p>② 実施内容（複数選択可）は、ストレッチなどの軽運動が 58.9% (166)、ソフトバレーが 26.2% (74)、軽スポーツが 25.2% (71)、卓球が 21.3% (60) である。</p> <p>③ 日課内のスポーツの実施頻度は、月 20 回以上（ほぼ毎日）が 42.8% (119) である。</p> <p>④ 運動の目的（3 つまで選択可）は、健康の維持増進が 56.1% (185)、気分転換が 47.6% (157)、交流や仲間づくりが 39.7% (131) である。</p> <p>⑤ 運動の目的として、就労のための準備は 13.0% (43)、作業効率の向上は 9.7% (32) である。</p> <p>⑥ 現行の全国障害者スポーツ大会の競技のうち、取り組みやすい競技（2 つまで選択可）は卓球が 78.4% (302)、ボウリングが 64.4% (248)、フライングディスクが 21.8% (84) である。</p>																								

<p>■障害者スポーツセンター等 ( )内は実数</p> <p>① 精神障害者が実施しているスポーツ（複数選択可）は、卓球、軽スポーツがそれぞれ 67.3% (33)、ソフトバレーボール、軽運動がそれぞれ 59.2% (29)、バドミントンが 57.1% (28) である。</p> <p>② 精神障害者の施設の利用形態（複数選択可）は、「団体利用」が 89.8% (44)、「個人利用」が 67.3% (33)、「教室参加」が 61.2% (30)、「大会参加」が 59.2% (29) である。</p> <p>③ 精神障害者のみを対象とした事業の有無は「ある」が 21.8% (12)、「ない」が 78.2% (43) である。</p>
<p>■障害者スポーツ協会 ( )内は実数</p> <p>① スポーツ協会への精神障害者関係組織の加盟は 41.5% (22)、未加盟は 58.5% (31) である。</p> <p>② 精神障害者が参加するスポーツ協会事業の有無は、「ある」が 56.6% (29)、「ない」が 43.4% (23) である。</p> <p>③ 全国障害者スポーツ大会予選会への精神障害者の参加有無では、「参加している」が 73.6% (39)、「参加していない」が 26.4% (14) である。</p> <p>④ 全国障害者スポーツ大会以外のスポーツ事業を行っているスポーツ協会が半数以上である。</p>
<p>スポーツ参加の効果</p> <p>今回の調査では、「健康の維持増進」や「気分転換」「交流や仲間づくり」をスポーツの効果として考えている自立支援事業所が多い。一方、「コミュニケーションの円滑化」や「作業効率の向上」などに効果があると回答した事業所は少ない。この結果は、調査した自立支援事業所のうち就労移行支援の機能を有する事業所の割合が低い 12.1% (61) ことによるものかもしれない。しかし、就労に向けて一定の体力や対人関係能力を備えておくことは重要であると思われるため、運動やスポーツが、就労や自立した生活を確立するためにどのような効果があるのかについても今後検証していく必要がある。</p>
<p>障害者スポーツセンターにおけるスポーツへの配慮や工夫</p> <p>① 施設利用に際して、初回対応時には特に丁寧に対応し、話す内容を含めたコミュニケーション、また日頃の体調確認、受け入れ体制などに留意している。</p> <p>② 実際運動する際にも、声かけ、コミュニケーションを取り、休憩や運動負荷に配慮するなど、個々の特徴や体調に留意している。</p> <p>③ 職員間で情報の共有と共通認識を図り、諸問題に適切に対応できるよう心がけている。</p>
<p>今後の課題</p> <p>① 全国障害者スポーツ大会における精神障害者の参加競技の検証</p> <p>② 精神障害者にとっての運動・スポーツの効果の理解促進</p>

### Ⅲ 精神障害者のスポーツ参加の現状

### Ⅲ 精神障害者のスポーツ参加の現状

精神障害者のスポーツの現状を知るため、「精神障害者のスポーツ振興及び全国障害者スポーツ大会への精神障害個人競技導入のための基礎調査」として、①地域で精神障害者を支える障害者自立支援事業所（調査1）、②障害者スポーツを推進している障害者スポーツセンター〔笹川スポーツ財団「障害者スポーツ施設に関する研究」2011年より抽出〕（調査2）、③都道府県・指定都市障害者スポーツ協会（調査3）を対象にアンケート調査を実施した。調査1から3まで、対象の特色にあわせた質問様式を用いて、平成23年9月29日から平成23年10月26日まで、留置郵送法、自記式（選択および自由記述式）にて実施した。回答結果および調査結果を以下に示す。

表1 アンケート調査の回答状況

調査対象	送付数	有効回答数	回答率
①障害者自立支援事業所	886	446	50.3%
②障害者スポーツセンター	104	57	54.8%
③障害者スポーツ協会	67	54	80.6%
計	1,057	557	52.7%

#### 1 障害者自立支援事業所

##### (1) 対象（表2-Q2）

まず、調査対象である自立支援事業所の種類について簡単に解説する。

（36～38頁 参考資料1～6参照）

障害者が地域で自立した生活が営めるように、障害者自立支援法では、障害のある人が普通に暮らせる地域づくりを目指している。そして、今までの（旧法）の居宅サービスと施設サービスから、障害者自立支援サービス事業へと移行した。

今回の調査は、障害者自立支援法で定める訓練等給付のサービスのうち①就労移行支援（就労を目指した活動）、②就労継続支援（就労の機会の提供）、及び市町村の判断で行う地域生活支援事業の③地域活動支援センター事業（地域生活者の活動の場）を行う事業所を主な対象とした。

「その他」には、訓練等給付の共同生活援助（グループホーム）、あるいは介護給付の共同生活介護（ケアホーム）、短期入所（ショートステイ）が含まれている。また、旧法の小規模作業所などが含まれている。

事業所の種類別回答状況を表2-Q2に示す。複数の機能をもつ事業所からの回答が含まれている。

表2-Q2 事業所の種類別回答状況（事業所がもつ機能により複数回答有）

	N	%	回答数内%
地域活動支援センター	105	20.8	24.1
就労移行支援	61	12.1	14.0
就労継続支援	242	47.8	55.6
その他	98	19.4	22.5
合計	506	100	116.3

回答事業所数435（97.5%）

## (2) 調査結果

障害者自立支援事業所の調査のうち、ここでは事業所における運動・スポーツプログラムの内容に関する結果を以下に示す。なお、運動の目的や効果に関する調査結果（51～52 頁 Q19、Q20、Q21）については、「IV. 精神障害者のスポーツ参加の効果」にまとめた。

### 1) 日課の中で取り組んでいる運動・スポーツプログラムの実施状況（図 1-Q4）

事業所の 63.7%がプログラムとして運動・スポーツを実施している。

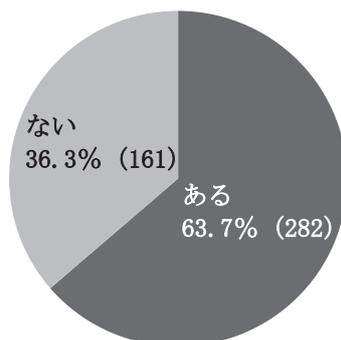


図 1-Q4 日課内での運動・スポーツプログラムの有無

### 2) 実施頻度（表 3-Q6）

日課の中で取り組んでいる運動・スポーツプログラムの実施頻度は、月 20 回以上（ほぼ毎日）が 42.8%であり、さらに週に 1 回以上の実施では 6 割を超える。

表 3-Q6 日課内での運動・スポーツプログラムの実施頻度（複数回答有）

	N	%	回答数内%
月に20回以上(ほぼ毎日)	119	39.3	42.8
月に8(週2)回程度	9	3	3.2
月に4(週1)回程度	42	13.9	15.1
月に1回程度	98	32.3	35.3
年に数回程度	35	11.6	12.6
合計	303	100	109.0

回答事業所数278/282 (98.6%)

3)実施内容 (表 4-Q5)

事業所の日課の中で取り組んでいる運動・スポーツプログラムの種目は、ストレッチなどの軽運動が 58.9%であり、ソフトバレー26.2%、軽スポーツ 25.2%、卓球が 21.3%である。(複数回答有)

表 4-Q5 日課内での運動・スポーツプログラムの種類 (複数回答有)

	N	%	回答数内%
軽運動	166	32.5	58.9
ソフトバレーボール	74	14.5	26.2
軽スポーツ	71	13.9	25.2
卓球	60	11.8	21.3
バドミントン	33	6.5	11.7
ソフトボール	31	6.1	11.0
ボウリング	22	4.3	7.8
フットサル	11	2.2	3.9
水泳	6	1.2	2.1
グランドゴルフ	6	1.2	2.1
テニス	4	0.8	1.4
バレーボール	3	0.6	1.1
フライングディスク	2	0.4	0.7
アーチェリー	1	0.2	0.4
サッカー	1	0.2	0.4
スケート	1	0.1	0.4
その他	18	3.5	6.4
合計	510	100	180.9

回答事業所数282(100%)

4)実施場所と参加形態 (表 5-Q7、表 6-Q8)

日課内での運動・スポーツプログラムは、事業所や施設内での実施が 55.2%と最も多く、次が公共スポーツ施設での実施 38.4%である。

また、日課内プログラムの参加対象者については、原則として全員を対象にしているのが 41.6%、希望者のみを対象にしているのが 61.2%である。

表 5-Q7 日課内での運動・スポーツプログラムの実施場所 (複数回答有)

	N	%	回答数内%
事業所・施設内	148	50.2	55.2
公共スポーツ施設	103	34.9	38.4
民間スポーツ施設	16	5.4	6.0
障害者スポーツセンター	15	5.1	5.6
学校開放等	13	4.4	4.9
合計	295	100	110.1

回答事業所数268/282 (95.0%)

表 6-Q8 日課内での運動・スポーツプログラムの参加形態

	N	%	回答数内%
原則全員参加	117	40.5	41.6
希望者参加	172	59.5	61.2
合計	289	100	102.8

回答事業所数281/282 (99.6%)

5) 休憩時間や昼休みに取り組んでいる運動・スポーツプログラム (図 2-Q9)

休憩時間や昼休みに取り組んでいる運動・スポーツプログラムは「ない」(92.7%)と回答した事業所が多くを占めている。

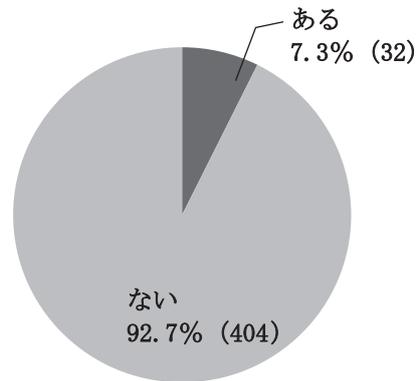


図 2-Q9 休憩時運動・スポーツプログラムの有無

6) 休憩時間や昼休みに取り組んでいる内容、頻度、場所、参加形態

(表 7-Q10、表 8-Q11、表 9-Q12、表 10-Q13)

休憩時間や昼休みに取り組んでいる運動・スポーツプログラムは、「ある」と回答した事業所(7.3%)のうち、ストレッチなどの体操が40.6%、卓球が21.9%である。頻度としては、月に20回以上(ほぼ毎日)が62.5%、また週1回以上(回答合計)が81.3%である。

表 7-Q10 休憩時の運動・スポーツプログラムの種類(複数回答有)

	N	%	回答数内%
軽運動	13	40.6	40.6
卓球	7	21.9	21.9
軽スポーツ	6	18.8	18.8
ソフトボール	2	6.3	6.3
ソフトバレーボール	2	3.1	6.3
その他	4	9.4	12.5
合計	34	100.0	106.3

回答事業所数32/32 (100%)

表 8-Q11 休憩時の運動・スポーツプログラムの実施頻度

	N	%	回答数内%
月に20回以上(ほぼ毎日)	20	62.5	62.5
月に8(週2)回程度	3	9.4	9.4
月に4(週1)回程度	3	9.4	9.4
月に1回程度	1	3.1	3.1
年に数回程度	5	15.6	15.6
合計	32	100.0	100.0

回答事業所数32/32 (100%)

表 9-Q12 休憩時の運動・スポーツプログラムの実施場所

	N	%	回答数内%
事業所・施設内	23	71.9	71.9
近所の公園等	7	21.2	21.2
その他	2	6.1	6.1
合計	32	100.0	100.0

回答事業所数32/32 (100%)

表 10-Q13 休憩時の運動・スポーツプログラムの参加形態

	N	%	回答数内%
原則全員参加	14	43.8	43.8
希望者参加	18	56.3	56.3
合計	32	100.0	100.0

回答事業所数32/32 (100%)

7) 日課の終了後に取り組んでいる運動・スポーツプログラム (図 3-Q14)

事業所での日課後に運動・スポーツプログラムが「ある」と回答したのは6.8%、「ない」との回答が93.2%である。

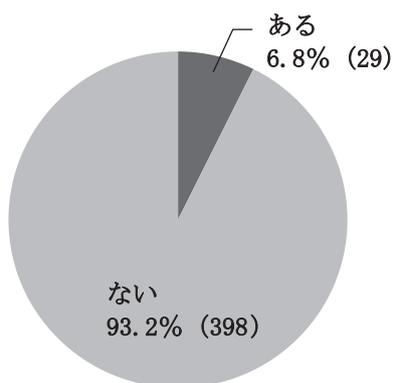


図 3-Q14 日課終了後の運動・スポーツプログラムの有無

8) 日課の終了後に取り組んでいる内容、頻度、場所、参加形態

(表 11-Q15、表 12-Q16、表 13-Q17、表 14-Q18)

日課の終了後に取り組んでいる運動・スポーツプログラムは「ある」と回答した事業所(7%)のうち、ソフトバレーが16.7%、卓球が14.3%である。頻度としては、月に20回以上(ほぼ毎日)が21.4%、それに、月に8(週2)回程度と月に4(週1)回程度を合わせて換算すると、週1回以上の実施は5割に上る。

表 11-Q15 日課終了後の運動・スポーツプログラムの種類(複数回答有)

	N	%	回答数内%
ソフトバレーボール	7	16.7	24.1
卓球	6	14.3	20.7
軽運動	5	11.9	17.2
フットサル	4	9.5	13.8
ソフトボール	4	9.5	13.8
ボウリング	3	7.1	10.3
バドミントン	3	7.1	10.3
軽スポーツ	2	4.8	6.9
水泳	2	4.8	6.9
アーチェリー	1	2.4	3.4
テニス	1	2.4	3.4
スケート	1	2.4	3.4
その他	3	7.1	10.3
合計	42	100	144.8

回答事業所数29/29(100%)

表 12-Q16 日課終了後の運動・スポーツプログラムの頻度

	N	%
月に20回以上(ほぼ毎日)	6	21.4
月に8(週2)回程度	2	7.1
月に4(週1)回程度	6	21.4
月に1回程度	7	25.0
年に数回程度	7	25.0
合計	28	100.0
NA	1	

表 13-Q17 日課終了後の運動・スポーツプログラムの実施場所

	N	%
事業所・施設内	9	34.6
公共スポーツ施設	9	34.6
民間スポーツ施設	1	3.8
障害者スポーツセンター	1	3.8
近所の公園等	5	19.2
その他	1	3.8
合計	26	100.0
NA	3	

表 14-Q18 日課終了後の運動・スポーツプログラムの参加形態

	N	%
原則全員参加	5	17.2
希望者参加	24	82.8
合計	29	100.0

9) 都道府県・政令指定都市で実施されている障害者スポーツ大会に施設としての参加状況 (図 4-Q22)

施設として、都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ大会への参加実績は、「ある」が 35.2%、「ない」が 64.8%である。

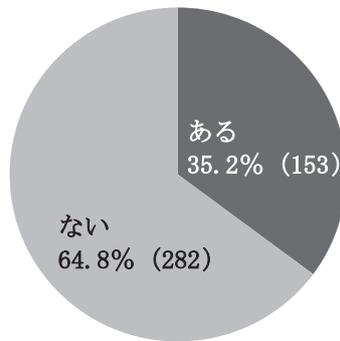


図 4-Q22 都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ大会への参加の有無

10) 全国障害者スポーツ大会で実施されている個人競技のうち、取り組みやすい競技 (表 15-Q23)

現在、全国障害者スポーツ大会では 6 つの個人競技が実施されているが、その中で取り組みやすい競技としての回答は、卓球が 78.4%、ボウリングが 64.4%、フライングディスクが 21.8%である。一方で、陸上競技は 6%、水泳 2.9%と低く、「アーチェリー」と回答した事業所はなかった。

表 15-Q23 全国障害者スポーツ大会実施競技の中で取り組みやすい個人競技  
(2 つまで選択可)

	N	%	回答数内%
卓球	302	45.2	78.4
ボウリング	248	37.1	64.4
フライングディスク	84	12.6	21.8
陸上競技	23	3.4	6.0
水泳	11	1.6	2.9
アーチェリー	0	0.0	0.0
合計	668	100.0	173.5

回答事業所数 385/446 (86.3%)

11) 全国障害者スポーツ大会の実施競技以外で取り組んでみたい競技 (表 16-Q24)

回答が多かった競技について表 16-Q24 に示す。自由記述での回答であり、これ以外に 29 の競技が挙げられている。

表 16-Q24 全国障害者スポーツ大会の実施競技で取り組んでみたい競技

ソフトボール	21
フットサル	15
ソフトバレーボール	15
バドミントン	12
グランドゴルフ	10
ボッチャ	6
バレーボール	4
ペタンク	4

## 2 障害者スポーツセンター

### (1) 対象

今回調査票を送った障害者スポーツセンターは障害者スポーツセンター協議会に入っている 23 施設を含む 104 施設。この 104 施設は(財)笹川スポーツ財団「障害者のスポーツ施設に関する研究」(2011年3月)にまとめられている 116 施設より今回調査の目的に合った施設を抽出したものである。これらは平成9年度障害者白書に記載されていた、身体障害者福祉センター(A型)、勤労身体障害者体育施設、勤労身体障害者教養文化体育施設、その他都道府県・指定都市が設置している施設をもとに再調査した結果明らかになった施設である。今回は 104 施設のうち 57 施設(55%)が回答した。このうち障害者スポーツセンター協議会に入っている施設は 17 施設であった。

なお、本調査において、記述式回答による Q9 施設利用に際しての配慮、Q10 指導上の留意の 2 点については、「V 精神障害者のスポーツ施設利用上・指導上の配慮と留意点(スポーツセンター調査より)」にて報告する。

### (2) 調査結果

#### 1) 平成 22 年度に精神障害者が実施したスポーツ(表 17-Q7)

スポーツセンターで精神障害者が実施したスポーツとして多かったのは卓球が 67.3%、ウォーキングやニュースポーツなどの軽スポーツが 67.3%である。その他ソフトバレーボールが 59.2%、ストレッチなどの軽運動が 59.2%、バドミントンが 57.1%である。フライングディスクが 49.0%、水泳が 40.8%と 4 割を超える。

表 17-Q7 精神障害者が実施したスポーツ(複数回答有)

	N	%	回答C内%
卓球	33	11.2%	67.3%
軽スポーツ	33	11.2%	67.3%
ソフトバレーボール	29	9.8%	59.2%
軽運動	29	9.8%	59.2%
バドミントン	28	9.5%	57.1%
フライングディスク	24	8.1%	49.0%
水泳	20	6.8%	40.8%
バスケットボール	14	4.7%	28.6%
バレーボール	13	4.4%	26.5%
テニス	12	4.1%	24.5%
アーチェリー	8	2.7%	16.3%
グランドゴルフ	7	2.4%	14.3%
フットサル	7	2.4%	14.3%
サッカー	6	2.0%	12.2%
陸上競技	6	2.0%	12.2%
ボウリング	5	1.7%	10.2%
スキー	2	0.7%	4.1%
ソフトボール	2	0.7%	4.1%
スケート	1	0.3%	2.0%
その他	16	5.4%	32.7%
合計	295	100.0%	—

回答スポーツセンター数49/57(86.0%)

## 2) 精神障害者の施設利用形態(表 18-Q6)

精神障害者の施設の利用形態は「団体利用」が 89.8%で最も多く、次いで「個人利用」が 67.3%、「教室参加」が 61.2%である。

表 18-Q6 精神障害者の施設利用形態

	N	%	回答C内%
個人利用	33	23.4%	67.3%
団体利用	44	31.2%	89.8%
大会参加	29	20.6%	59.2%
教室参加	30	21.3%	61.2%
その他	5	3.5%	10.2%
合計	141	100.0%	—

回答した施設数49 (86.0%)

## 3) 精神障害者のみを対象としたスポーツ関連事業 (図 5-Q8、表 19-Q8)

精神障害者のみを対象とした事業は「ある」が 21.8%、「ない」が 78.2%である。

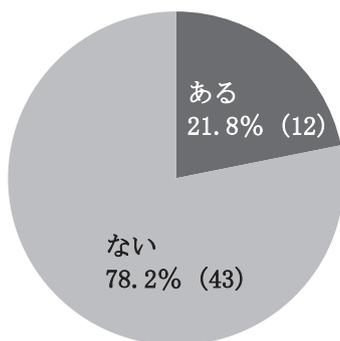


表 19-Q8 精神障害者のみを対象としたスポーツ事業

バレーボール	3
軽スポーツ	2
卓球	2
軽運動	2
ヨガ	1
バドミントン	1
フライングディスク	1
体育及びリワークの運動指導	1
記載なし	2

図 5-Q8 精神障害者のみを対象とした事業の有無

## 3 都道府県・指定都市障害者スポーツ協会

### (1) 対象

平成 23 年 4 月現在で、都道府県・指定都市における障害者スポーツ協会の設置数は 54 団体である。今回すべての障害者スポーツ協会から回答があった。

平成 22 年度財団法人日本障害者スポーツ協会による「我が国の障害のある人のスポーツ活動の振興—都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会の現状調査」によると、54 のスポーツ協会のうち 47 のスポーツ協会が精神障害を含めた 3 障害（身体・知的・精神）を対象にしているとの回答があった。(38 頁 参考資料 7 参照)

### (2) 調査結果

#### 1) 都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会への精神障害者関連組織の加盟・登録団体 (図 6-Q5)

障害者スポーツ協会への精神障害者関係組織の「加盟」は 41.5%、「加盟していない」は 58.5%である。

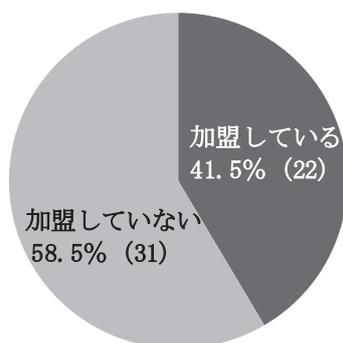


図 6-Q5 障害者スポーツ協会への精神障害者関連組織の加盟の有無

2) 主催・共催する都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ大会（全スポ予選等）における精神障害者の参加状況（図 7-Q7）

全国障害者スポーツ大会予選会への精神障害者の参加状況は「参加している」が 73.6%、「参加していない」が 26.4%である。

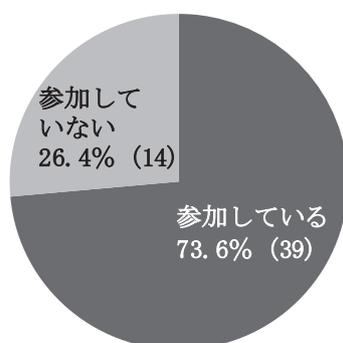


図 7-Q7 全スポ予選会への精神障害者の参加の有無

3) 全国障害者スポーツ大会予選会への精神障害者の参加競技（表 20-Q8）

全国障害者スポーツ大会予選会（以下、「全スポ予選会」という）において精神障害者が参加している競技は、バレーボールが 74.4%で最も多く、次いでフライングディスクが 48.7%、陸上競技と卓球が 41%である。その他、ボウリングが 33.3%、水泳が 23.1%である。

表 20-Q8 全スポ予選会に精神障害者が参加している競技

	N	%	回答協会内%
バレーボール	29	26.1	74.4
フライングディスク	19	17.1	48.7
陸上競技	16	14.4	41.0
卓球	16	14.4	41.0
ボウリング	13	11.7	33.3
水泳	9	8.1	23.1
アーチェリー	3	2.7	7.7
その他	6	5.4	15.4
合計	111	100.0	284.6

回答した協会数39/53（73.6%）

4) 精神障害者が参加するその他の事業 (図 8-Q11)

全スポ予選会以外で、精神障害者が参加するスポーツ協会としての事業は「ある」が 56.6%、「ない」が 43.4%である。

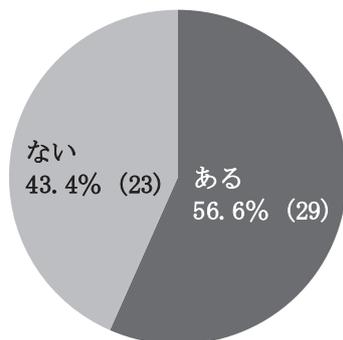


図 8-Q11 全スポ予選会以外で精神障害者が参加する事業の有無

5) 全スポ予選会以外で実施している事業の競技 (表 21-Q12)

全スポ予選会以外の事業で精神障害者が参加している競技は、ソフトバレーボールが 53.3%、軽スポーツが 50.0%。また、フライングディスクが 36.7%、卓球が 30.0%、軽運動、陸上競技が 23.3%、水泳、ボウリング、スキーが 20.0%である。その他、バドミントンが 16.7%、グラウンドゴルフ、フットサル、ソフトボール、バレーボールが 13.3%、アーチェリーが 10.0%、テニスが 6.7%、バスケットボールが 3.3%と多様である。

表 21-Q12 全スポ予選会以外で精神障害者が参加する事業

競技名	N	%	回答協会内%
ソフトバレーボール	16	13.2	53.3
軽スポーツ	15	12.4	50.0
フライングディスク	11	9.1	36.7
卓球	9	7.4	30.0
軽運動	7	5.8	23.3
陸上競技	7	5.8	23.3
水泳	6	5.0	20.0
ボウリング	6	5.0	20.0
スキー	6	5.0	20.0
バドミントン	5	4.1	16.7
グラウンドゴルフ	4	3.3	13.3
フットサル	4	3.3	13.3
ソフトボール	4	3.3	13.3
バレーボール	4	3.3	13.3
アーチェリー	3	2.5	10.0
テニス	2	1.7	6.7
バスケットボール	1	0.8	3.3
サッカー	0	0.0	0.0
その他	11	9.1	36.7
合計	121	100.0	-

回答した協会数30 (55.6%)

#### **IV 精神障害者のスポーツ参加の効果 (障害者自立支援事業所調査より)**

#### IV 精神障害者のスポーツ参加の効果（障害者自立支援事業所調査より）

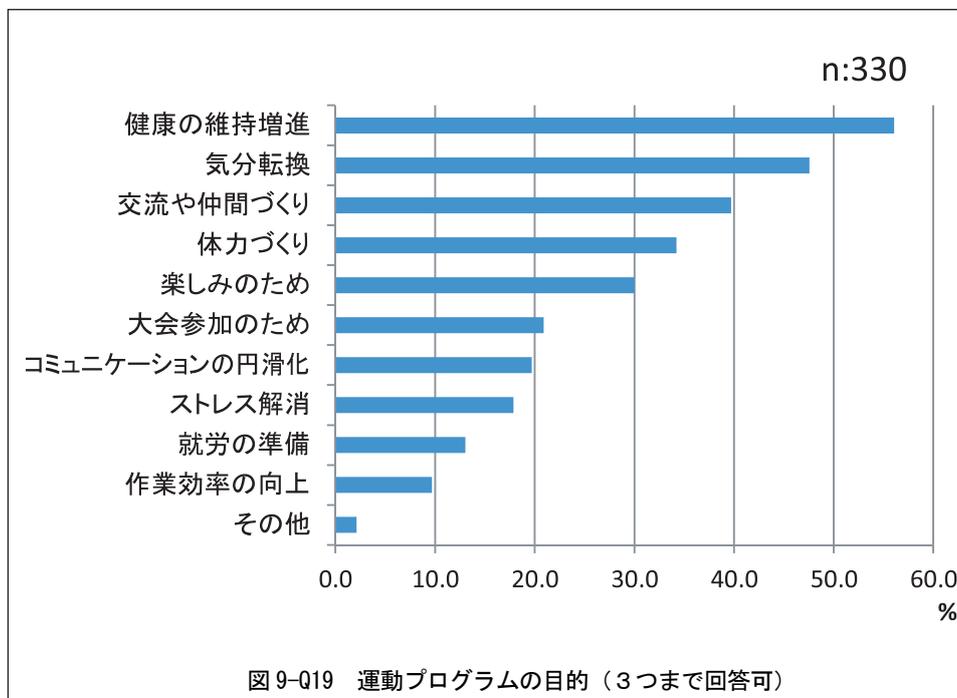
##### 1) 精神障害者の事業所でスポーツを実施する目的（表 22-Q19、図 9-Q19）

56.1%が健康の維持増進と回答した。気分転換（47.6%）の割合も高かった。一方、就労の準備（13%）や作業効率の向上（9.7%）としての認識は低い。

表 22-Q19 運動プログラムの目的（3つまで回答可）

	N	%	回答数内%
健康の維持増進	185	19.3	56.1
気分転換	157	16.4	47.6
交流や仲間づくり	131	13.7	39.7
体力づくり	113	11.8	34.2
楽しみのため	99	10.3	30.0
大会参加のため	69	7.2	20.9
コミュニケーションの円滑化	65	6.8	19.7
ストレス解消	59	6.2	17.9
就労の準備	43	4.5	13.0
作業効率の向上	32	3.3	9.7
その他	7	0.7	2.1
合計	960	100	290.9

回答事業所数330/446（74.0%）



2) 精神障害者の事業所で実施するスポーツの効果 (表 23-Q20、図 10-Q20)

スポーツの効果として 7 割近くが気分転換 (68.8%) をあげている。交流や仲間づくり (47.8%)、健康の維持増進 (46.6%) も高く、ストレス解消 (29.7%)、笑顔が増えた (24.6%) など精神症状の安定も含め健康の維持増進につながるものと推察される。

一方、体力がついた (16.9%)、コミュニケーションの円滑化 (挨拶) (16.9%)、積極性が出た (9.8%) についての効果は乏しい。

表 23-Q20 運動プログラムの効果 (3つまで回答可)

	N	%	回答数内%
気分転換できる	232	24.3	68.8
交流や仲間づくりができた	161	16.8	47.8
健康の維持増進	157	16.4	46.6
ストレス解消になった	100	10.5	29.7
笑顔が増えた	83	8.7	24.6
体力ついた	57	6.0	16.9
コミュニケーション円滑化(あいさつ)	57	6.0	16.9
積極性(やる気)が出た	33	3.5	9.8
作業効率向上	20	2.1	5.9
行動範囲広がった	15	1.6	4.5
生活力向上(規則正しい生活。身体ケア。服装)	11	1.2	3.3
就労が促進された	9	0.9	2.7
睡眠リズム安定	8	0.8	2.4
その他	13	1.4	3.9
合計	956	100.0	283.7

回答事業所数337 (75.6%)

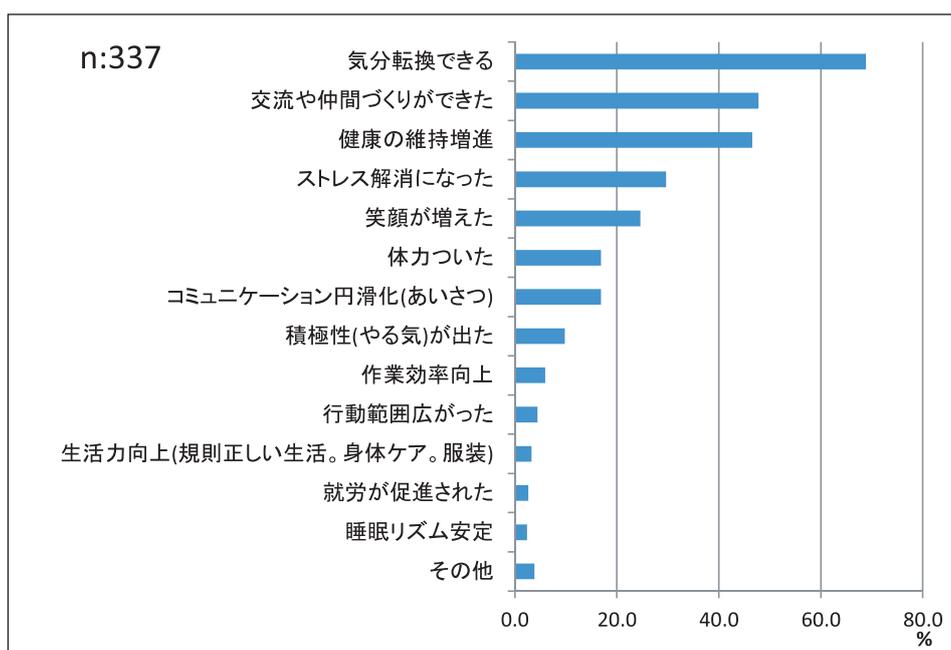


図 10-Q20 運動プログラムの効果 (3つまで回答可)

3)運動・スポーツプログラムを実施しない理由 (表 24-Q21)

運動・スポーツプログラムを実施しない理由として、時間がない (50.8%) が半分を占める。またニーズがない (38.3%)、場所がない (38%) も 3 割を超える。また、体力がない (24.1%)、指導者がいない (20.7%) といった課題が明確となり、それらを支援する指導者の養成と支援指導法の開発も重要である。

表 24-Q21 運動・スポーツプログラムを実施しない理由

	N	%	回答数内%
時間がない	135	21.7	50.8
ニーズがない	102	16.4	38.3
場所がない	101	16.2	38.0
体力がない	64	10.3	24.1
指導者がいない	55	8.8	20.7
施設の目的と合わない	53	8.5	19.9
可能な競技がない	25	4.0	9.4
経済的余裕がない	25	4.0	9.4
指導方法がわからない	23	3.7	8.6
精神障害者にスポーツということを考えたことがない	2	0.3	0.8
その他	38	6.1	14.3
合計	623	100.0	234.2

回答事業所数266 (59.6%)

**V 精神障害者のスポーツ施設利用上、指導上の配慮と留意点**  
**(スポーツセンター調査より)**

## V 精神障害者のスポーツ施設利用上、指導上の配慮と留意点(スポーツセンター調査より)

### 1 施設利用に際しての配慮 (Q9)

スポーツセンターにおける精神障害者利用への対応は、大きく分けると「体調(精神安定度)の確認」、「初回対応時のコミュニケーション」、「施設使用への配慮」、「その他の配慮」を行っているから、何も行っていないなどで様々であるが、「当センターの利用登録及び利用証発行に際する面談のときに、利用に関して気になる点や留意点を聞き、それを職員全員で共有する。」に代表されるように、初めて来館した時や利用する時にコミュニケーションを図っているセンターが多くある。

#### (1) 体調(精神安定度)の確認

その時々で体調が変化することがあるので、挨拶や会話の中でその日の調子を確認し、接し方に注意する。ときには、常備薬の有無の確認、ある場合はどのような症状のとき服薬するのか、コミュニケーションを図りながら確認する。
体調面だけでなく、精神面においても安心して利用できるよう支援している(声かけ等)。
言動、行動から体調を把握していく。

#### (2) 初回対応時のコミュニケーション

その人の行動パターン・疾患からくる特徴など、(当施設では、医療情報・個人プロフィールがわからないので)最初は、その方がどのような障害像を示すのか、出来る限りコミュニケーションを図る。また、利用の仕方や対人関係など、行動についても観察し、相手を知ることにも務め、職員間で共有し、トラブルに発展しないよう心がける。
<ul style="list-style-type: none"><li>・初めて来館時にセンター利用方法やルールを丁寧に説明する。</li><li>・看護師とのインテークを必ず受けてから利用証発行をしている。</li><li>・パニック障害と記載の場合は、どんな時にどのようなになってしまうか、その時どう自分で対処しているかを聞ける範囲で確認している。</li></ul>
受付時に服薬、気持ちの落ち着き具合の確認をしている。気持ちが落ち着いているときに利用する、疲れないようにする、かかりつけの医師にスポーツセンターを利用することを伝えるようお願いしている。体育施設の利用のルール、マナーをしっかりと伝え、決して曖昧なことを言わないよう、根気強く接している。
予約時、利用時には普通に(ていねいに)話を聞くようにしている。いろいろと気になったりあせったりすることがあるようだが、こちらは落ちついておおらかに対応するように気をつけている。
事業所などを利用している場合は、支援員より情報収集している。障害の別なく組織しているクラブに加入されている場合は、調整するために介入する場合もある。(今の所大きなトラブルはない)
個人で施設利用の場合には、看護師によるインテークを実施し、体調管理や緊急連絡先を確認させて頂き、さらにキーパーソンとなる者を把握し対応。また、団体利用の場合、付添責任者に当日の状態をうかがい、特記事項があれば、現場指導員に伝える配慮をしている。(対応は看護師がしている)

<p>精神障害者の利用を受け入れるに当たり、当センターに隣接する保健医療センターの医者や職員（スポーツ指導員・精神保健福祉士）等に講義をして頂き、質問ができるように連携を取っています。また、当センター初回利用時には、既往歴を伺うと共に、センターの設置目的や利用方法を伝え、ご理解頂くようにしています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心感を感じられる雰囲気づくり、関わり方に注意する。</li> <li>・スタッフが情報を共有し、統一的に接する。</li> <li>・守秘義務。</li> <li>・初回利用時、または状況に応じて面接を行い、精神状態・身体状態について観察、必要に応じて主治医に意見を聞く。</li> <li>・入院中の施設利用は原則として受け入れていないが、主治医が療養上必要と認め、本人が希望している場合は主治医と連携を取りながら受け入れる。</li> </ul>
<p>個人の状況とニーズの把握。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬などの服用により、倦怠感のある方への配慮。</li> <li>・他の専門機関との連携を取っている体制づくり。</li> <li>・気軽にリピート来館できる場所であるための雰囲気づくり。</li> </ul>
<p>当センターの利用登録及び利用証発行に際する面談のときに、利用に関して気になる点や留意点を聞き、それを職員全体で共有する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手帳所持者であれば、無料で利用可能であるが、手帳の申請をしておらず、手帳未所持の方でも通院等の経歴のある方については、相談に応じ”同等者”として利用していただいている。</li> <li>・個人（ひとり）で利用を希望する方には個別に相談に応じて対応している。</li> </ul>
<p>障がい者本人、又はその関係者からの問い合わせがあった場合には相談に応じ、対応しています。</p>
<p>施設利用中に体調の変化等が発生しても対応出来る様に利用責任者とコミュニケーションを出来るだけ図る。</p>
<p>精神障害者に限りませんが、こちらの説明等に対する理解が困難な方には、せかしたりせず、「明確に」「ゆっくり」「ていねいに」くり返し説明するようにしています。障害の種別に関わりなく、相手の話をよく聴き、安心して話ができる信頼関係をつくれるように心がけています。</p>
<p>日常生活の様子や服薬状況など、家族や施設、主治医、専門機関との連携を密にし、問題発生時等に適切に対処できるよう職員間での情報共有を図る。</p>
<p>地域担当者、保健師、PSWなどと情報交換を密にし職員間で情報を共有することでトラブルを未然に防ぐ。</p>

### （3）施設使用への配慮

<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター職員を配置するようにしている。</li> <li>・体育館を全面使用して1回の練習も9：00～12：00までの3時間を基本としている。</li> </ul>
<p>他の利用者との関係性等にも考慮し、利用環境に配慮する。</p>
<p>体育館を利用する場合、ほかの団体や施設と重複しないようにしている。</p>

#### (4) その他の配慮

不安を感じさせないように穏やかな口調・態度での対応に心掛けています。
もし、利用者がある場合は、介助者の有無を確認して、利用してもらいます。また、現在利用している各クラブ、団体には受け入れの可能性も考慮してもらうよう話をしております。
<ul style="list-style-type: none"><li>・一般の人より2か月前から予約を受ける。</li><li>・講座に対して、一般の人よりも優先に申し込みを受ける。</li><li>・施設料、受講料無料。</li></ul>
喫煙者が多く見られますが喫煙場所で御利用いただき健常者以上にマナーを守っている様です。
プライバシー、個人情報の保護に細心の注意を払う。
当センターは、健常者といろいろな障害者が一緒に活動（ふれあう場）を提供することを目的としている為、さまざまな利用者が多く、ほかの障害者や健常者とのトラブルに配慮している。
精神障害者の利用について特に配慮している部分はない。しかし、利用上マナーの悪い、また問題の多い利用者の情報を職員で共有し、言動に注意し、問題が大きくなるように対応する。
安全対策に対する施設の保全。
必要に応じてプレーのサポートをするなど、利用し易い環境づくりに心掛けている。
特に大げさな対応はしていないが、過去に他の利用者の方とトラブルが起こった際には、職員が間に入り対応したこともある。

#### (5) 特に配慮をしていないと思われる回答

他の利用者と同じように安全にスポーツを楽しんでもらう。
職員による準備運営。(6人)
安全に施設を利用して頂くため、設備や用具等の点検は日常業務の中で行っていますが、施設（またはコート）単位の専用利用のため、利用の内容（軽スポーツ等、大会等）までは指定管理者の立場としてはタッチしておりません。全て主催者（使用管理者）の管理下で施設を利用して頂いています。
個人利用の場合は、障害者手帳を掲示することで使用料を免除している。また、団体利用の場合も、事前に申請することで使用料を免除している。（条件として介添者がいること）このシステムは、行政を通じて各団体等に通知してあるので、基本的には精神障害者に限らず、障害者の利用方法が周知されているものと考えているので、特別に配慮するようなことはしていない。
<ul style="list-style-type: none"><li>・大会参加がほとんどなので、一緒に参加される介助者に対応はまかせている。</li><li>・他の面においては他の障害者・健常者と同じように心がけている。</li></ul>
スポーツセンター事業に関わるボランティア活動などスポーツ活動以外での参加の機会を作り、より施設に親しみやすくするなど、情緒面での安定を図る。
当施設は「身体障害者福祉センターB型」として身体障害者を対象に事業展開しております。主催事業は身体障害者手帳を保持が条件となっています。サークル活動及び部屋貸しの際の利用者に精神障害の方がいらっしゃるかどうかは把握できておりません。（申請時での記載はありません。）
特になし。(6件)

## 2 指導上の配慮・留意点（Q10）

指導上の配慮・留意点は、大きく分けて「言葉かけの支援」、「体調(その日の調子)の確認」、「他者との関わり」、「その他の配慮」など、各センターが利用者の個別性などを踏まえた指導を行っている。

### (1) 言葉かけ等の支援

どのような言葉かけが、その方にとって有効かを、コミュニケーションを図りながら確認する(チームスポーツでの指導の場合は、その場面ですぐに指導した方が良いのか、終了後に個人的に指導した方がよいのかなど)。一方では、過剰な対応にならないように、ある程度の距離を保つよう心がける。
適切な間合いを保ち否定的な表現をせず、コミュニケーションを図りながら活動の確認を行う。また、言動、表情の変化など安定から不安定への移行に気づき対応を心がける。
見た目では分かりづらい睡眠障害や疲れやすい方がいるので、コミュニケーションを多くする。 (表情や言動に注意する。誉める。多くを否定しないで、なるべく同調する。)
精神障害の特性として集中持続力の低下や注意散漫、とっさの判断の難しさ、情緒に影響を受け夢中になりすぎてしまうこと等がある。このような対応については、利用団体のスタッフの助言を得るなど連携をとりながら指導している。
<ul style="list-style-type: none"><li>・利用者の意思を尊重し、無理に指導したり止めたりすることをしないように心がけている。</li><li>・大体の参加者は施設を利用されている方が多く、付き添いの職員にまかせている場合が多い。</li></ul>
指導の場面は“個別指導”が殆どで、教室(集団指導)に参加される方は僅かです。特に配慮している事は、「言葉のやり取り」「態度」となります。
職員が笑顔で元気よく接するなど、楽しい雰囲気をつくるよう努めている。また、安心して気軽に運動してもらえるように、その日の調子についてよく聞き、集団であっても個々のペースを大事にしたり、体や心に負担になることは強制しないよう心がけている。その他、緊張の強い方を考慮して、体の緊張を緩める運動を最初に行ったり、運動不足になりがちの方が負荷の強い運動をするときは注意して行うようにしている。
<ul style="list-style-type: none"><li>・否定的な言動を避け、肯定的なイメージを持てるよう支援する。</li><li>・勝敗等に過度にこだわらないよう支援する。</li><li>・本人の精神状況に合った声かけ、指導を行う。</li></ul>
運動歴や体力を聞き取りなどで把握してから、運動量を調整している。

### (2) 体調(その日の調子)の確認

運動前に、その日の体調を聴きとる。また、調子が悪くなったときは自分で判断して休憩を取ることができるのかなどを確認し、活動時間などを相談する。また、強制せず、自主的に参加できるように促す。精神的に不安定な場合は、無理をさせないための声かけをしながら見守る。ただ、精神面で波があり、休んだり来なくなったりする場合もあるので、スポーツを継続していくためには、役割を付けたり、ポジションなどを決めることもある。
強制、強要にならないよう休憩時間を自分の意志でとることを含め、自主的な活動を促す。薬の影響等で疲れやすいことへの配慮。
休憩を多めに取ること(特にバレーボール競技の指導時など)

<p>一般的に次のようなことを留意している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急がせない。</li> <li>・ルールにこだわらない。</li> <li>・健康状態、服薬の把握（健康状態調表による）。</li> <li>・身体状況に応じて個人の技量を伸ばしていく。</li> <li>・理解を深める為、図や写真入りの資料を配る。</li> <li>・こまめに水分補給と休憩をとる。</li> <li>・楽しく声を出し合って練習する。</li> <li>・終わったらみんなで会話を楽しむ。</li> </ul>
<p>無理をさせない。休憩を多く取るようにしている。</p>
<p>指導の内容、休息、活動の時間配分や声かけなど、障害の特性を理解、配慮の上指導するように心がけている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力差がはげしいので、集団で指導する時は、運動強度に気をつける。</li> <li>・すぐに煙草を吸うので、時間内の喫煙を控えるように配慮している。</li> <li>・参加が強制にならないようにする、休んでも責めない。</li> <li>・無口な人が多いので、元気に挨拶するなど、明るい雰囲気づくりに努める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏場の教室等、暑さ対策に特に気をつけている（暑さに弱い）。</li> <li>・精神状態が急激に変化するため、スタッフの理解と、スタッフは常に共通認識を持つようにしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者の方々の体調管理に細心の注意を払う。ケガ等が発生しないようにする。</li> <li>・ゲームや試合の結果を気にする方もいるので、できるだけ勝敗にこだわらないような雰囲気づくりを心がけている。</li> </ul>
<p>浮き沈みが激しい方には状況をみて休んでもらう。重複している障害が隠されている事も予想され、指導前にほかに障害が無いか再度聞き取りをする。</p>
<p>スポーツ教室は行っていないが、運動メニューを考案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間の運動をさける。</li> <li>・無理をせずマイペースに（休憩を多めにとる）。</li> <li>・複雑なことを一度に行わない。</li> <li>・副作用の強い薬の確認（医者からの許可等）。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテーク時の情報や運動相談・医事相談での情報はスタッフ間で共有している。</li> <li>・インテーク時の情報に変化があった時は、日々のミーティングや社内メールによりその都度情報伝達している。</li> </ul>

- ・ウォーミングアップに時間をかけ、徐々に心拍数を上げていき、ハード過ぎないようにする。適度に休養を入れる。
- ・スケジュールを伝えておく。
- ・緊張を軽減する。ウォーミングアップで呼吸法を取り入れる。→リラックス
- ・家でもできる軽い運動を紹介。
- ・リズム運動と呼吸法で、運動意欲を高めていく。→ストレス発散
- ・朝日をあびる。
- ・笑い声の出るコーディネーショントレーニング（なつかしい子供遊びなども）。
- ・チーム協力型のレクリエーションスポーツを行う。
- ・ルールはわかりやすく。

症状が不安定なことが多いため、スポーツ場面においても相手の話を聞く姿勢を大切に、その日の調子を確認しながら行う。

- ・積極的に休憩時間を取ることを。
- ・参加の呼びかけは行っても、強制はしない。

### （3）他者との関わり

他の参加者が一緒の場合は、交流できる場面や、注目して認め合う場面などをつくり、「自分はこちらに必要な存在である、参加する意味がある」と認識していただき、継続につなげる。

気持ちが落ち着いて練習できるよう場の設定、対人関係に配慮している。

### （4）その他の配慮

当館では障がい者スポーツ（卓球等）の開放日を設けており、外部の方にコーチとして指導等をお願いしている。精神障害者が参加される場合はコーチにその障害の状況を伝え、柔軟に対応しています。

- ・障害者スポーツ指導員が対応している。
- ・根気がないところ。
- ・薬の具合と思うが持続性にかける。

アーチェリー利用者全員に「認定制度」を導入。また、保証人をたてての「契約書」を提出していただいている。（精神障害者の利用が増えている）

病状などを事前に把握しておく。

利用者の状況が個人により千差万別である事を常に念頭に置いている。

精神疾患上服薬している可能性も考えられるため、運動負荷との関連に配慮し、各人の体力に合わせた運動量を選択する。

個々の必要性に応じたメモリーノート（トレーニング手帳）を作成し、血圧測定・トレーニング室でのメニュー、卓球やボウリングの申し込みから実際に行うまでの手順を示し、自立した行動に結びつけるよう支援する。ふうせんバレーボールなどのチームスポーツを経験することによって、協調性や数字の理解などの情緒面の安定、認知面の活性化を図る。

- ・利用者の把握。
- ・安心して参加できるような環境づくり。
- ・楽しく参加できるような工夫。

(5) 特に配慮していないと思われる回答

センター職員が直接教室で指導することはなく、外部講師が指導しています。講師は専門的な情報を得ている方に依頼しています。

病院のレクリエーション的運動を行っている様です。指導員の指導のもと、健常者と変わりなく行っています。

貸し館が主なので精神障害者の方に直接スポーツ指導する場面がほとんどないが、まずは相手の言うことを聞いてそれからこちらが話をするようにしている。

指導者が同行する様をお願いしている。

特に配慮していない。(6件)

## VI まとめ

## VI まとめ

### (1) 調査の経緯

身体運動は、睡眠や食事と共に、人が健康で活動的に生きていくために重要で必要なものである。そして、スポーツは生きる目標ややる気・動機を明確にし、一定の社会ルールを学び、また仲間や多様な人間関係の距離や一体感を実感する等、現代日本社会に欠けている最も必要なものが存在する。このような理由により、身体障害者や知的障害者のスポーツは、日本のみならず国際的にも大きく発展してきた。

一方、精神障害者の身体活動は、長く医療のなかでの取り組みが続き、ようやく平成 11 年、日本精神保健福祉連盟にスポーツ推進委員会を設置し、全国障害者スポーツ大会オープン競技を経て、平成 20 年の第 8 回全国障害者スポーツ大会より、精神障害者のバレーボールが正式競技に加わった。このバレーボールの発展に合わせ、地域レベルでのスポーツの取り組みが始まった。

しかし、精神障害者に対するスポーツ活動の実態は調査されておらず、そのスポーツの効果についても検証が行われていなかった。そこで、精神障害者のスポーツ活動の実態を把握し、今後の精神障害者のスポーツの推進のために、3 年計画の調査を開始することとした。今年度は、精神障害者を地域で支援する事業所、障害者スポーツを推進する障害者スポーツセンター及び障害者スポーツ協会を対象に調査を行った。

### (2) 結果と考察

#### ・自立支援事業所

63.7%の事業所が日課のなかにスポーツを取り入れ、そのうち 42.8%の事業所がほぼ毎日、運動・スポーツを行なっている。さらに週 1 回以上の頻度を含めるとその割合は 6 割以上になる。また、実施場所は主に事業所内や公共スポーツ施設であることから、スポーツ活動に際して障害者スポーツ指導員が関わりを持つ機会はほとんどないと推察される。そのため実施スポーツは、運動負荷が低く手軽に参加できる軽運動、ソフトバレーボール、卓球などが行われているものと推測される。

スポーツを行う主な目的としては、健康維持 56.1% (185)、気分転換 47.6% (157) など一般的な目的と同じであり、就労のための準備 13.0% (43) や作業効率の向上 9.7% (32) の認識は低い。これは、今回の調査対象に就労移行支援の機能を有する事業所が少ない 12.1% (61) こととも関係すると思われる。

一方、スポーツを実施しない理由として、時間がない 50.3% (135)、ニーズがない 38.3% (102)、場所がない 38.0% (101) 等を挙げている。

#### ・障害者スポーツセンター

障害者スポーツセンターにおいて精神障害者が実施したスポーツは、自立支援事業所で実施している卓球、軽スポーツ、ソフトバレーボールなどに加え、バドミントン、水泳、バスケットボール、テニスなどである。また、利用形態についても、個人利用や教室参加など自主的なスポーツ参加が見られる。

- ・都道府県・指定都市障害者スポーツ協会

精神障害者の全スポ予選会への参加率は30%以下であったが、60%近い協会では全スポ予選会以外にも精神障害者が参加する事業を行なっている。実施競技は軽スポーツ、卓球、フライングディスクが多い。しかし、平成22年度に日本障害者スポーツ協会が実施した「全国の障害者スポーツ協会実態調査」によると、47の協会（87.0%）が精神障害を含めた3障害を事業の対象としていると回答していることから、精神障害者を事業の対象としながらも、実際には精神障害者が参加する事業を行っていない協会が20%以上あるということが明らかになった。

### （3）今後の課題

- ・全国障害者スポーツ大会における精神障害者の参加競技の検証

本調査により、全国障害者スポーツ大会で実施している個人競技の中で卓球が最も活動が顕著な競技であることが明らかになった。さらに卓球は、取り組みやすさに関する設問においても最も回答が多かった競技である。そこで、平成24年度は、卓球に取り組んでいる施設等を対象に、年齢や性別の参加状況、実施上の留意点や問題点、規則の適用状況等について調査を行い、全国障害者スポーツ大会における精神障害者の参加競技として妥当であるかどうかについて検証する。

また、ボウリングとフライングディスクについては、卓球に比べて実施率は低いが、スポーツの主な実施場所が事業所内や公共スポーツ施設であることに起因していると思われる。一方で、取り組みやすさの設問においては卓球に続き回答数が多かったことを踏まえ、活動実態のある施設等における聞き取り調査を行い、全国障害者スポーツ大会における精神障害者の参加競技として妥当であるかどうかについて検証する。

- ・精神障害者にとっての運動・スポーツの効果の理解促進

日課として運動・スポーツを実施していない障害者自立支援事業所においてスポーツは、健康の維持増進、気分転換、仲間作り等、一般的な効果について認めているが、あくまでも余暇活動として捉えているのではないかと思われる。しかし、精神障害者にとって運動・スポーツは、たとえ毎日10～15分程度の運動であっても、作業効率を向上させ、睡眠リズムを安定させるなど、就労に不可欠な体力や対人関係能力を向上させる有効な手段であると思われる。そこで、これらについて科学的な裏付けを取り、日課として運動・スポーツを実施していない障害者自立支援事業所の理解促進を図る必要がある。

### （4）おわりに

今年度は、「スポーツ基本法」が施行され、障害者や高齢者も含めたすべての国民のスポーツの振興がスタートした。今回の調査は、身体障害者や知的障害者に比べて遅れがちな精神障害者のスポーツ活動の実態を調査したはじめての試みであり、今後の精神障害者のスポーツ活動の促進にむけた第一歩になった。ただし、新たに手帳取得の対象になった高次脳機能障害者や発達障害など、一口に「精神障害者」といっても原疾患は多様化しており、障害特性に応じたきめ細かな考察を加えられる状況にはな

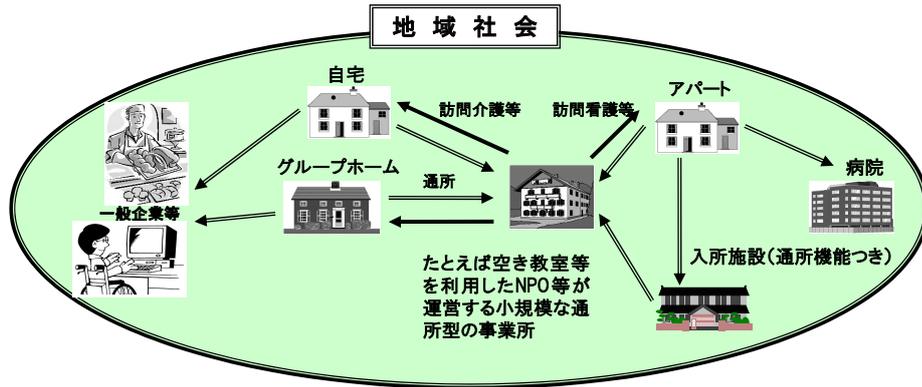
いのが実情である。

今回の調査にあたり、多くの自立支援事業所、障害者スポーツセンター、障害者スポーツ協会のご協力をいただいたことに感謝するとともに、引き続きご協力をいただき、精神障害者のスポーツがさらに前進できるよう、一層のご支援ご協力をお願いしたい。

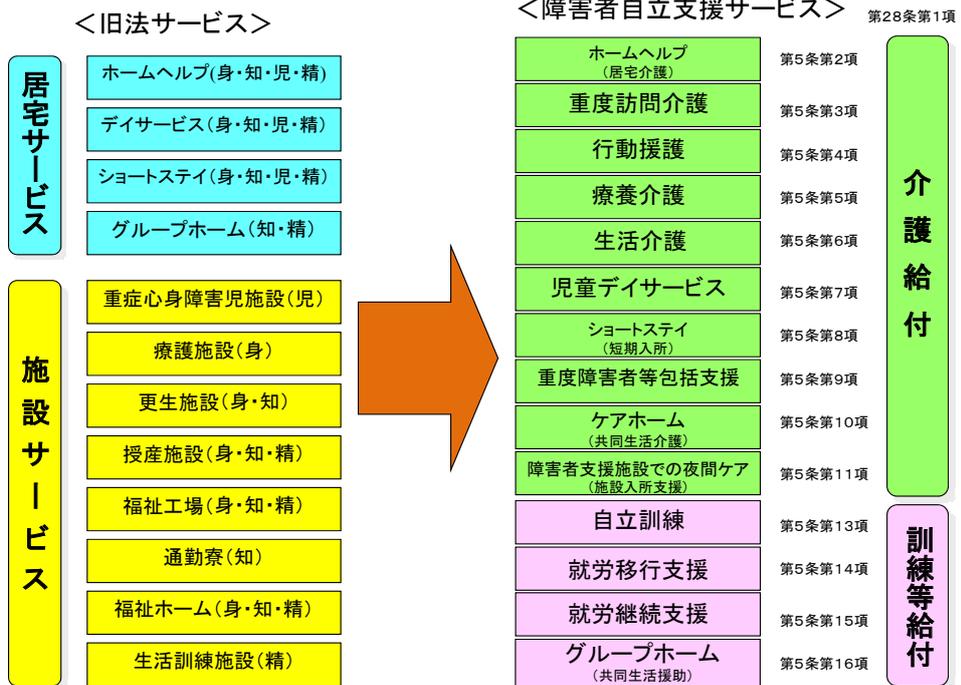
## VII 資料

## 障害者自立支援法 障害のある人が普通に暮らせる地域社会づくり

- ・ 障害の種別に関わりなく必要な支援が得られる体制の整備
- ・ 就労も含めて地域生活の支援を進める
- ・ できるだけ身近なところにサービス拠点
- ・ NPO、空き教室、小規模作業所、民間住宅など地域の社会資源を活かす
- ・ 施設入所者も選べる日中活動(地域に移行するための動機づくり)
- ・ 重度の障害者も地域で暮らせる基盤づくり



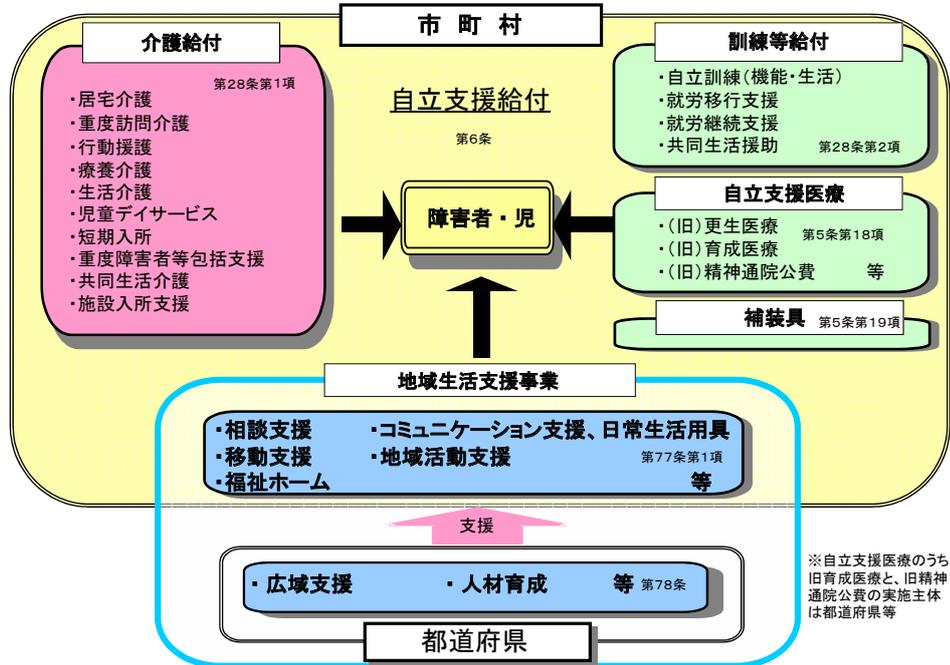
## 社会福祉サービスに係る自立支援給付の体系



※この他、地域生活支援事業として移動支援、地域活動支援センター・福祉ホーム等を制度化 第28条第2項

-参考資料 3-

### 総合的な障害者自立支援システムの構築



-参考資料 4-

### 介護給付:10種類

①居宅介護 (ホームヘルプ)	居宅において入浴、排泄または食事の介護等生活全般にわたる援助サービス	訪問系
②重度訪問介護	重度の肢体不自由者で常時介護を要する障害者を対象とした、居宅における入浴、排泄または食事の介護などや、外出時における移動中の介護を総合的に行うサービス(18歳以上の障害者を基本的に対象とする)	訪問系
③行動援護	知的障害又は精神障害により行動上著しく困難を有する障害児・者を対象とした、行動する際に生じ得る危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の支援	訪問系
④重度障害者等 包括支援	常時介護を要し、その介護の必要の程度が著しく高い障害児・者を対象として、居宅介護をはじめとする複数の障害福祉サービスを包括的に提供することをいう	訪問系
⑤児童デイサー ビス	障害児を対象とした、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等をいう	日中 活動系
⑥療養介護	医療を要し常時介護を要する障害者を対象とし、主として昼間において、病院において行われる機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理下における介護及び日常生活上の支援を言う(18歳未満は児童福祉法に基づく施設給付の対象)	日中 活動系
⑦生活介護	常時介護を要する障害者を対象として、主として、昼間において、障害者支援施設において行われる入浴、排泄または食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供等の支援(18歳未満は児童福祉法の基づく施設給付の対象)	日中 活動系
⑧短期入所 (ショートステイ)	介護者が病気等の場合に、障害者支援施設等への短期入所による、入浴、排泄または食事の介護等の支援を言う	夜間
⑨施設入所支援	施設入所物を対象として、主として夜間において、入浴、排泄又は食事の介護等の支援(18歳未満は児童福祉法に基づく施設給付の対象)	夜間
⑩共同生活介護 (ケアホーム)	主として夜間において、共同生活を営むべき住居において入浴、排泄又は食事の介護などの支援(18歳以上の障害者を基本的に対象とする)	夜間

## 訓練等給付：4種類<sup>18歳以上の障害者を基本的対象とする</sup>

訓練等給付	内容
①自立訓練 (機能訓練・生活訓練)	自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、有期限で身体機能(機能訓練：身体障害者対象)または生活能力(生活訓練：知的障害者、精神障害者対象)の向上のための必要な訓練を行う(日中活動系)
②就労移行支援	就労を希望する障害者を対象に、有期限で、職場実習など、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う(日中活動系)
③就労継続支援 (A型、B型)	通常の事業所に雇用されることがない困難な障害者を対象に、就労の機会を提供し[雇用型=A型)、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて(非雇用型=B型)、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う(日中活動系)
④共同生活援助 (グループホーム)	地域において共同生活を営むのに支障のない障害者を対象に、主として夜間において、共同生活を営むべき住居においての相談その他の日常生活上の援助を行う(夜間)

## 地域生活支援事業

- ・ 地域の実情に応じて、柔軟に実施される事業について法定化
- ・ 市町村の判断で事業を実施、国に2分の1以内の補助

1. 相談支援事業
2. コミュニケーション支援事業(手話通訳派遣)
3. 日常生活用具給付事業
4. 移動支援事業(個別支援型・グループ支援型、車両移送型)
5. 地域活動支援センター事業

### 地域活動支援センター事業は

- ①創作活動
- ②生産活動の機会の提供
- ③社会との交流の促進、市町村の創意工夫

### 地域活動支援センター強化事業

- I型：相談事業・専門職員(psw)、連携強化、ボラ育成、普及啓発
- II型：機能訓練：社会適応事業、自立と生きがいを高める事業
- III型：運営年数等小規模作業所の支援

- ・ スポーツ活動の促進も可能

都道府県・指定都市障害者スポーツ協会が対象とする障害(平成22年度調査より)

対象障害	n	%
身体	2	3.7
知的	1	1.9
身体・知的	4	7.4
身体・知的・精神	43	79.6
身体・知的・精神・その他	4	7.4
合計	54	100.0

精神障害者のスポーツ振興及び全国障害者スポーツ大会への精神障害個人競技導入のための基礎調査  
(自立支援事業所・精神科デイケア等)

回答はすべて回答用紙に記入してください

質問 1. 貴組織名を教えてください

質問 2. 貴組織の種類を教えてください。当てはまる番号を回答用紙に記入してください

- 1.地域型クラブ                      2.地域活動支援センター      3.就労移行支援  
4.就労継続支援 (A/B)      5. 精神科デイケア              6. その他 (                      )

質問 3. 記入者名 連絡先 (住所 電話番号 FAX番号 メールアドレス) を教えてください。

質問 4. 貴組織の日課の中で取り組んでいる運動・スポーツプログラムはありますか？

1. ある    2. ない

質問 5. 質問 4 であると答えた方へ。その運動の種類を下の中から選んで回答用紙に記入してください

1. 軽運動 (例: ラジオ体操、ストレッチ、体力づくり体操など)  
2. 軽スポーツ (例: レクリエーション的運動、ウォーキング、ニュースポーツなど)  
3. 陸上競技    4. 水泳    5. アーチェリー    6. 卓球    7. フライングディスク  
8. ボウリング    9. グラウンドゴルフ    10. バドミントン    11. テニス  
12. フットサル    13 サッカー    14.バスケットボール    15. ソフトボール  
16. ソフトバレーボール    17 バレーボール    18 スキー    19 スケート  
20 その他 (具体的に                      )

質問 6. 質問 4 であると答えた方へ。そのプログラムの実施頻度を教えてください。

1. 月に 20 回以上 (ほぼ毎日)    2. 月に 8 回 (週 2 回) 程度  
3. 月に 4 回 (週 1 回) 程度    4. 月に 1 回程度              5. 年に数回程度

質問 7. 質問 4 であると答えた方へ。そのプログラムの実施場所は主にどこですか？下の中から一つを選び、番号を回答用紙に記入してください

1. 事業所・施設内    2. 公共のスポーツ施設    3. 民間のスポーツ施設  
4. 障害者スポーツセンター    5. 学校開放等の利用    6. 近所の公園等  
5. その他 (                      )

質問 8. 質問 4 であると答えた方へ。そのプログラムは全員参加が原則のプログラムですかそれとも希望者参加のプログラムですか。当てはまる番号を回答用紙に記入してください。

- 1 原則全員参加    2. 希望者参加

質問 9. 貴組織において休憩時間やお昼休みに取り組んでいる運動やスポーツプログラムはありますか？当てはまる番号を回答用紙に記入してください

1. ある
2. ない

質問 10. 質問 9 であると答えたかたへ。その運動の種類を質問 5 の 1~20 の選択肢の中から選び回答用紙に記入してください

質問 11. 質問 9 であると答えた方へ。そのプログラムの実施頻度を教えてください

1. 月に 20 回以上 (ほぼ毎日)
2. 月に 8 回 (週 2 回) 程度
3. 月に 4 回 (週 1 回) 程度
4. 月に 1 回程度
5. 年に数回程度

質問 12. 質問 9 であると答えたかたへ。そのプログラムの実施場所として最もよく利用する場所はどこですか最もよく使用する場所 1 つを下から選び、番号を記入してください

1. 事業所内・施設内
2. 公共のスポーツ施設
3. 民間のスポーツ施設
4. 障害者スポーツセンター
5. 学校開放等の利用
6. 近所の公園等
7. その他 ( )

質問 13. 質問 9 であると答えた方へ。そのプログラムは全員参加が原則ですか、希望者参加ですか番号を記入ください

1. 原則全員参加
2. 希望者参加

質問 14. 貴組織において日課の終了後に取り組んでいる運動やスポーツプログラムはありますか？当てはまる番号を回答用紙に記入してください

1. ある
2. ない

質問 15. 質問 14 であると答えた方へ。その運動の種類を質問 5 の選択肢の中から選びその番号を回答用紙に記入してください。

質問 16. 質問 14 であると答えた方へ。そのプログラムの実施頻度を教えてください

1. 月に 20 回以上 (ほぼ毎日)
2. 月に 8 回 (週 2 回) 程度
3. 月に 4 回 (週 1 回) 程度
4. 月に 1 回程度
5. 年に数回程度

質問 17. 質問 14 であると答えたかたへ。そのプログラムの実施場所として最もよく利用する場所はどこですか最もよく使用する場所 1 つを下から選び、番号を記入してください

1. 事業所内・施設内
2. 公共のスポーツ施設
3. 民間のスポーツ施設
4. 障害者スポーツセンター
5. 学校開放等の利用
6. 近所の公園等
7. その他 ( )

質問 18. 質問 14 であると答えた方へ。そのプログラムは全員参加が原則ですか、希望者参加ですか番号を記入ください。

1. 原則全員参加
2. 希望者参加

質問 19. 何らかの運動・スポーツプログラムを実施している場合、そのプログラムの目的としてあてはまるものを三つ選び、回答用紙の番号に○をつけてください。

1. 健康の維持・増進
2. 体力づくり
3. 気分転換
4. ストレス解消
5. 交流や仲間づくり
6. コミュニケーションの円滑化
7. 就労の準備
8. 作業効率等の向上
9. 大会参加のため
10. 楽しみのため
11. その他 ( )

質問 20. 運動やスポーツ実施してよかったことや効果としてあてはまるものを三つ選び回答用紙の番号に○をつけてください。

1. 健康の維持・増進
2. 睡眠リズムが安定した
3. 体力がついた
4. 気分転換ができる
5. 笑顔が増えた
6. ストレス解消になった
7. 積極性（やる気）が出るようになった
8. 交流や仲間づくりができた
9. コミュニケーションの円滑化（あいさつができるようになったなど）
10. 就労が促進された
11. 作業効率等の向上した
12. 行動の範囲が広がった
13. 生活力が向上した（規則正しい生活、身体ケア、服装等）
14. その他 ( )

質問 21. 運動やスポーツを実施しない理由として当てはまるものの番号を3つまで選び回答用紙に記入してください。

1. 体力がない
2. 可能な競技がない
3. 場所がない
4. 時間がない
5. 指導者がいない
6. 指導方法がわからない
7. ニーズがない
8. 施設の目的と合わない
9. 精神障害者にスポーツということを考えたことがない
10. 経済的余裕がない
11. その他 ( )

質問 22. 都道府県・政令都市で実施されている障害者スポーツ大会に施設として参加したことはありますか。回答の番号を回答用紙に記入してください

1. ある
2. ない

質問 23. 別紙に現在全国障害者スポーツ大会で実施されている個人競技の紹介がしてあります。貴組織で取り組みやすい競技はどれですか？取り組みやすいものの番号を回答欄に **2つまで** 記入して下さい。

1. 陸上競技
2. 水泳
3. アーチェリー
4. 卓球
5. フライングディスク
6. ボウリング

質問 24. 全国障害者スポーツ大会で実施されている競技以外で取り組んでみたい競技があれば競技名を記入してください

精神障害者のスポーツ振興及び全国障害者スポーツ大会への精神障害個人競技導入のための基礎調査  
(自立支援事業所・精神科デイケア等 回答用紙)

質問 1	組織名						
質問 2	貴組織の種類・番号を記入 ( )						
質問 3	担当（記入）者氏名 連絡先住所 電話番号 FAX 番号 メールアドレス						
質問 4 番号記入		質問 5 番号記入		質問 6 番号記入		質問 7 番号記入	
質問 8 番号記入		質問 9 番号記入		質問 10 番号記入		質問 11 番号記入	
質問 12 番号記入		質問 13 番号記入		質問 14 番号記入		質問 15 番号記入	
質問 16 番号記入		質問 17 番号記入		質問 18 番号記入			
質問 19	当てはまるもの三つに○ 1 健康 2 体力 3 気分 4 ストレス解消 5 仲間 6 コミュニ 7 就労準備 8 作業効率 9 大会参加 10 楽しみ 11 その他（具体的に )						
質問 20	当てはまるもの三つに○ 1 健康 2 睡眠 3 体力 4 気分 5 笑顔 6 ストレス 7 積極性 8 仲間 9 コミュニ 10 就労 11 効率 12 行動範囲 13 生活力 14 （具体的に )						
質問 21	当てはまるもの三つに○ 1 体力 2 競技 3 場所 4 時間 5 指導者 6 方法 7 ニーズ 8 目的 9 考え 10 経済 11 （具体的に )						
質問 22 番号記入		質問 23	当てはまるもの二つに○ 1 陸上 2 水泳 3 アーチェ 4 卓球 5 FD 6 ボウリング				
質問 24	競技名記入						

ご協力ありがとうございました。 回答用紙は返信用封筒にて 10 月 26 日までにご投函下さい



精神障害者のスポーツ振興及び全国障害者スポーツ大会への精神障害個人競技導入のための基礎調査  
(スポーツセンター用 回答用紙)

質問 1	施設名
質問 2	担当（記入者）氏名
質問 3	連絡先 電話番号 FAX 番号
質問 4	メールアドレス
質問 5 人数記入	2006 年（ ）人 2007 年（ ）人 2008 年（ ）人 2009 年（ ）人 2010 年（ ）人
質問 6 番号に○	1. 個人利用 2. 団体利用 3. 大会参加 4. 教室参加 5. その他（具体的に ）
質問 7 番号に○	1. 軽運動（例：ラジオ体操、ストレッチ、体力づくり体操など） 2. 軽スポーツ（例：レクリエーション的運動、ウォーキング、ニュースポーツなど） 3. 陸上競技 4. 水泳 5. アーチェリー 6. 卓球 7. フライングディスク 8. ボウリング 9. グラウンドゴルフ 10. バドミントン 11. テニス 12. フットサル 13 サッカー 14 バasketボール 15. ソフトボール 16. ソフトバレーボール 17 バレーボール 18 スキー 19 スケート 20 その他（具体的に ）
質問 8 番号に○	1 はい→（質問 7 の番号を記入 ） 2 いいえ
質問 9 施設利用 に際して の配慮 自由記述	
質問 10 指導上の 配慮 自由記述	

ご協力ありがとうございました。回答用紙は返信用封筒にて 10 月 26 日までにご投函下さい

精神障害者のスポーツ振興及び全国障害者スポーツ大会への精神障害個人競技導入のための基礎調査  
(都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会用)

**回答はすべて回答用紙に記入してください**

- 質問 1. 貴組織の名称
- 質問 2. 担当(記入者)氏名
- 質問 3. 連絡先電話番号・FAX番号
- 質問 4. 連絡先 メールアドレス
- 質問 5. 貴組織への加盟団体・登録団体の中に精神障害者関係の団体はありますか  
1 はい 2 いいえ → 回答用紙の番号に○をつけてください
- 質問 6. 質問 5 で「はい」と答えた方へ。加盟している精神障害者スポーツ関連団体名を回答用紙に記入してください。
- 質問 7. 貴組織が主催・共催する都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ大会(全スポ予選を兼ねるもの)には精神障害者が参加していますか。  
1 はい 2 いいえ → 回答用紙の番号に○をつけてください
- 質問 8. 質問 7 で「はい」と答えた方へ。精神障害者が参加している競技すべての番号に○を付けてください(回答用紙の番号に○をつけてください)  
1 陸上競技 2 水泳 3 アーチェリー 4 卓球 5 フライングディスク  
6 ボウリング 7 (ソフト)バレーボール 8 その他(具体的に )
- 質問 9. 質問 7 で「はい」と答えた方へ。その大会に今年度参加した精神障害者施設(団体)の数を回答用紙に記入してください。
- 質問 10. 質問 7 で「はい」と答えた方へ。その大会に今年度参加した精神障害者数を回答欄に記入してください。
- 質問 11. その大会以外に貴組織がかかわる事業で精神障害者が参加しているものはありますか。  
1 はい 2 いいえ → 回答用紙の番号に○をつけてください
- 質問 12. 質問 11 で「はい」と答えた方へ。ある場合はその競技(スポーツ)を教えてください。  
回答用紙の当てはまる番号に○をつけてください。  
1. 軽運動(例:ラジオ体操、ストレッチ、体づくり体操など)  
2. 軽スポーツ(例:レクリエーション的運動、ウォーキング、ニュースポーツなど)  
3. 陸上競技 4. 水泳 5. アーチェリー 6. 卓球 7. フライングディスク  
8. ボウリング 9. グラウンドゴルフ 10. バドミントン 11. テニス  
12. フットサル 13 サッカー 14. バスケットボール 15. ソフトボール  
16. ソフトバレーボール 17 バレーボール 18 スキー 19 スケート  
20 その他(具体的に )

精神障害者のスポーツ振興及び全国障害者スポーツ大会への精神障害個人競技導入のための基礎調査  
 (都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会用 回答用紙)

質問 1	組織名
質問 2	担当（記入者）氏名
質問 3	連絡先 電話番号 FAX 番号
質問 4	メールアドレス
質問 5 番号に○	1 はい 2 いいえ
質問 6	貴組織に加盟している精神障害関連団体名を記入
質問 7 番号に○	1 はい 2 いいえ
質問 8 番号に○	1 陸上競技 2 水泳 3 アーチェリー 4 卓球 5 フライングディスク 6 ボウリング 7 (ソフト) バレーボール 8 その他(具体的に )
質問 9	今年度参加した精神障害者施設(団体)の数( )団体
質問 10	精神障害者出場者数 ( )人
質問 11 番号に○	1 はい 2 いいえ
質問 12 番号に○	1. 軽運動(例:ラジオ体操、ストレッチ、体づくり体操など) 2. 軽スポーツ(例:レクリエーション的運動、ウォーキング、ニュースポーツなど) 3. 陸上競技 4. 水泳 5. アーチェリー 6. 卓球 7. フライングディスク 8. ボウリング 9. グラウンドゴルフ 10. バドミントン 11. テニス 12. フットサル 13 サッカー 14. バasketボール 15. ソフトボール 16. ソフトバレーボール 17 バレーボール 18 スキー 19 スケート 20 その他(具体的に )

ご協力ありがとうございました。 回答用紙は返信用封筒にて 10月26日までにご投函下さい

## 自立支援事業所・精神科デイケア調査結果 (N=446)

Q1 省略

Q2 事業所の種類(複数回答有)

	N	%	回答数内%
地域活動支援センター	105	20.8	24.1
就労移行支援	61	12.1	14.0
就労継続支援	242	47.8	55.6
その他	98	19.4	22.5
合計	506	100	116.3

回答事業所数435 (97.5%)

Q3 省略

Q4 日課内の運動プログラムの有無

	N	%
ある	282	63.7
ない	161	36.3
合計	443	100.0
NA	3	—

Q5 日課内の運動プログラムの競技(複数回答有)

	N	%	回答数内%
軽運動	166	32.5	58.9
ソフトバレーボール	74	14.5	26.2
軽スポーツ	71	13.9	25.2
卓球	60	11.8	21.3
バドミントン	33	6.5	11.7
ソフトボール	31	6.1	11.0
ボウリング	22	4.3	7.8
フットサル	11	2.2	3.9
水泳	6	1.2	2.1
グランドゴルフ	6	1.2	2.1
テニス	4	0.8	1.4
バレーボール	3	0.6	1.1
フライングディスク	2	0.4	0.7
アーチェリー	1	0.2	0.4
サッカー	1	0.2	0.4
スケート	1	0.1	0.4
その他	18	3.5	6.4
合計	510	100	180.9

回答事業所数282 (100%)

Q6 日課内の運動プログラムの実施頻度(複数回答有)

	N	%	回答数内%
月に20回以上(ほぼ毎日)	119	39.3	42.8
月に8(週2)回程度	9	3	3.2
月に4(週1)回程度	42	13.9	15.1
月に1回程度	98	32.3	35.3
年に数回程度	35	11.6	12.6
合計	303	100	109.0

回答事業所数278 (98.6%)

Q7 日課内の運動プログラムの実施場所（複数回答有）

	N	%	回答数内%
事業所・施設内	148	50.2	55.2
公共スポーツ施設	103	34.9	38.4
民間スポーツ施設	16	5.4	6.0
障害者スポーツセンター	15	5.1	5.6
学校開放等	13	4.4	4.9
合計	295	100	110.1

回答事業所数268（95.0%）

Q8 日課内の運動プログラムの参加形態（複数回答有）

	N	%	回答数内%
原則全員参加	117	40.5	41.6
希望者参加	172	59.5	61.2
合計	289	100	102.8

回答事業所数281（99.6%）

Q9 休憩時の運動プログラムの有無

	N	%
ある	32	7.3
ない	404	92.7
合計	436	100.0
NA	10	—

Q10 休憩時の運動プログラムの競技（複数回答有）

	N	%	回答数内%
軽運動	13	40.6	40.6
卓球	7	21.9	21.9
軽スポーツ	6	18.8	18.8
ソフトボール	2	6.3	6.3
ソフトバレーボール	2	3.1	6.3
その他	4	9.4	12.5
合計	34	100.0	106.3

回答事業所32（100%）

Q11 休憩時の運動プログラムの実施頻度

	N	%	回答数内%
月に20回以上（ほぼ毎日）	20	62.5	62.5
月に8（週2）回程度	3	9.4	9.4
月に4（週1）回程度	3	9.4	9.4
月に1回程度	1	3.1	3.1
年に数回程度	5	15.6	15.6
合計	32	100.0	100.0

回答事業所32（100%）

Q12 休憩時の運動プログラムの実施場所

	N	%	回答数内%
事業所・施設内	23	71.9	71.9
近所の公園等	7	21.2	21.2
その他	2	6.1	6.1
合計	32	100.0	100.0

回答事業所32（100%）

Q13 休憩時の運動プログラムへの参加形態

	N	%	回答数内%
原則全員参加	14	43.8	43.8
希望者参加	18	56.3	56.3
合計	32	100.0	100.0

回答事業所32 (100%)

Q14 日課後の運動プログラムの有無

	N	%
ある	29	6.8
ない	398	93.2
合計	427	100.0
NA	19	—

Q15 日課後の運動プログラムの競技（複数回答有）

	N	%	回答数内%
ソフトバレーボール	7	16.7	24.1
卓球	6	14.3	20.7
軽運動	5	11.9	17.2
フットサル	4	9.5	13.8
ソフトボール	4	9.5	13.8
ボウリング	3	7.1	10.3
バドミントン	3	7.1	10.3
軽スポーツ	2	4.8	6.9
水泳	2	4.8	6.9
アーチェリー	1	2.4	3.4
テニス	1	2.4	3.4
スケート	1	2.4	3.4
その他	3	7.1	10.3
合計	42	100	144.8

回答事業所数29 (100%)

Q16 日課後の運動プログラムの実施頻度

	N	%
月に20回以上(ほぼ毎日)	6	21.4
月に8(週2)回程度	2	7.1
月に4(週1)回程度	6	21.4
月に1回程度	7	25.0
年に数回程度	7	25.0
合計	28	100.0
NA	1	—

Q17 日課後の運動プログラムの実施場所

	N	%
事業所・施設内	9	34.6
公共スポーツ施設	9	34.6
民間スポーツ施設	1	3.8
障害者スポーツセンター	1	3.8
近所の公園等	5	19.2
その他	1	3.8
合計	26	100.0
NA	3	—

Q18 日課後の運動プログラムの参加形態

	N	%
原則全員参加	5	17.2
希望者参加	24	82.8
合計	29	100.0

Q19 運動プログラムの目的（複数回答3）

	N	%	回答数内%
健康の維持増進	185	19.3	56.1
気分転換	157	16.4	47.6
交流や仲間づくり	131	13.7	39.7
体力づくり	113	11.8	34.2
楽しみのため	99	10.3	30.0
大会参加のため	69	7.2	20.9
コミュニケーションの円滑化	65	6.8	19.7
ストレス解消	59	6.2	17.9
就労の準備	43	4.5	13.0
作業効率の向上	32	3.3	9.7
その他	7	0.7	2.1
合計	960	100	290.9

回答事業所数330（74.0%）

Q20 運動プログラムの効果（複数回答3）

	N	%	回答数内%
気分転換できる	232	24.3	68.8
交流や仲間づくりができた	161	16.8	47.8
健康の維持増進	157	16.4	46.6
ストレス解消になった	100	10.5	29.7
笑顔が増えた	83	8.7	24.6
体力ついた	57	6.0	16.9
コミュニケーション円滑化(あいさつ)	57	6.0	16.9
積極性(やる気)が出た	33	3.5	9.8
作業効率向上	20	2.1	5.9
行動範囲広がった	15	1.6	4.5
生活力向上(規則正しい生活。身体ケア。服装)	11	1.2	3.3
就労が促進された	9	0.9	2.7
睡眠リズム安定	8	0.8	2.4
その他	13	1.4	3.9
合計	956	100.0	283.7

回答事業所数337（75.6%）

Q21 運動プログラムを実施しない理由（複数回答3）

	N	%	回答数内%
時間がない	135	21.7	50.8
ニーズがない	102	16.4	38.3
場所がない	101	16.2	38.0
体力がない	64	10.3	24.1
指導者がいない	55	8.8	20.7
施設の目的と合わない	53	8.5	19.9
可能な競技がない	25	4.0	9.4
経済的余裕がない	25	4.0	9.4
指導方法がわからない	23	3.7	8.6
精神障害者にスポーツということ を考えたことがない	2	0.3	0.8
その他	38	6.1	14.3
合計	623	100.0	234.2

回答事業所数266（59.6%）

Q22 障害者スポーツ大会への施設としての参加有無

	N	%
ある	153	35.2
ない	282	64.8
合計	435	100.0
NA	11	-

Q23 取り組みやすい全スポ競技（複数回答2）

	N	%	回答数内%
卓球	302	45.2	78.4
ボウリング	248	37.1	64.4
フライングディスク	84	12.6	21.8
陸上競技	23	3.4	6.0
水泳	11	1.6	2.9
アーチェリー	0	0.0	0.0
合計	668	100.0	173.5

回答事業所数385（86.3%）

## 障害者スポーツセンター調査結果 (N=57)

Q1~Q4 省略

Q2 事業所の種類(複数回答有)

年	N	最小値	最大値	平均
2006 (平成18年)	38	.0	6825	1574.0
2007 (平成19年)	39	.0	7588	1700.7
2008 (平成20年)	41	.0	7555	1763.9
2009 (平成21年)	43	.0	9276	1810.0
2010 (平成22年)	44	.0	8867	1898.1

Q6 精神障害者の施設利用形態(複数回答有)

形態	N	%	回答C内%
個人利用	33	23.4%	67.3%
団体利用	44	31.2%	89.8%
大会参加	29	20.6%	59.2%
教室参加	30	21.3%	61.2%
その他	5	3.5%	10.2%
合計	141	100.0%	—

回答した施設数49 (86.0%)

Q7 精神障害者の実施競技 (複数回答)

競技名	N	%	回答C内%
卓球	33	11.2%	67.3%
軽スポーツ	33	11.2%	67.3%
ソフトバレーボール	29	9.8%	59.2%
軽運動	29	9.8%	59.2%
バドミントン	28	9.5%	57.1%
フライングディスク	24	8.1%	49.0%
水泳	20	6.8%	40.8%
バスケットボール	14	4.7%	28.6%
バレーボール	13	4.4%	26.5%
テニス	12	4.1%	24.5%
アーチェリー	8	2.7%	16.3%
グランドゴルフ	7	2.4%	14.3%
フットサル	7	2.4%	14.3%
サッカー	6	2.0%	12.2%
陸上競技	6	2.0%	12.2%
ボウリング	5	1.7%	10.2%
スキー	2	0.7%	4.1%
ソフトボール	2	0.7%	4.1%
スケート	1	0.3%	2.0%
その他	16	5.4%	32.7%
合計	295	100.0%	—

回答スポーツセンター数49/57 (86.0%)

Q8 精神障害者のみを対象とした事業の競技

バレーボール	3
軽スポーツ	2
卓球	2
軽運動	2
ヨガ	1
バドミントン	1
フライングディスク	1
体育及びリワークの運動指導	1
記載なし	2

Q9~Q10 本文V参照

Q7 その他の回答内訳

ウェイトトレーニング	2
風船バレー	2
プールイベント	1
ユニカール	1
フライングディスク	1
クォーターテニス	1
ミニバレーボール	1
フラダンス	1
ゲートボール	1
ポッチャ	1
よさこい	1
エコロベース	1
スキューバダイビング	1
文化教室・他イベント等	1

## 都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会調査結果 (N=54)

Q1～Q4 省略

Q2 精神障害関連団体の協会への加盟有無

	N	%
加盟している	22	41.5
加盟していない	31	58.5
合計	53	100.0

Q6 協会に加盟している精神障害関連団体名 省略

Q7 全スポ予選への精神障害者の参加有無

	N	%
参加している	39	73.6
参加していない	14	26.4
合計	53	100.0

Q8 全スポ予選における精神障害者の参加競技(複数回答)

競技名	N	%	回答協会内%
バレーボール	29	26.1	74.4
フライングディスク	19	17.1	48.7
陸上競技	16	14.4	41.0
卓球	16	14.4	41.0
ボウリング	13	11.7	33.3
水泳	9	8.1	23.1
アーチェリー	3	2.7	7.7
その他	6	5.4	15.4
合計	111	100.0	284.6

回答した協会数39/53 (73.6%) 39/39 (100%)

Q9 全スポ予選への精神障害者施設の参加団体数

団体数	N	%
～10	20	55.6
11～20	10	27.8
21～30	4	11.1
31～40	1	2.8
41～50	0	.0
51～	1	2.8
合計	36	100.0
NA	3	—

Q10 全スポ予選への精神障害者参加者数

参加者数(人)	N	%
～50	12	32.4
51～100	7	18.9
101～150	8	21.6
151～200	5	13.5
201～250	1	2.7
251～300	2	5.4
300～	2	5.4
合計	37	100.0
NA	2	—

Q11 全スポ予選以外の精神障害者参加事業の有無

	N	%
ある	30	56.6
ない	23	43.4
合計	53	100.0

Q12 全スポ予選以外で行っている事業の競技(複数回答)

競技名	N	%	回答協会内%
ソフトバレーボール	16	13.2	53.3
軽スポーツ	15	12.4	50.0
フライングディスク	11	9.1	36.7
卓球	9	7.4	30.0
軽運動	7	5.8	23.3
陸上競技	7	5.8	23.3
水泳	6	5.0	20.0
ボウリング	6	5.0	20.0
スキー	6	5.0	20.0
バドミントン	5	4.1	16.7
グランドゴルフ	4	3.3	13.3
フットサル	4	3.3	13.3
ソフトボール	4	3.3	13.3
バレーボール	4	3.3	13.3
アーチェリー	3	2.5	10.0
テニス	2	1.7	6.7
バスケットボール	1	0.8	3.3
サッカー	0	0.0	0.0
その他	11	9.1	36.7
合計	121	100.0	—

回答した協会数30 (55.6%)

## 委員名簿

委員長	大久保春美	(公財)日本障害者スポーツ協会 理事、技術委員長 日本パラリンピック委員会 副委員長
委員	藤田 紀昭	(公財)日本障害者スポーツ協会 技術委員会 副委員長 同志社大学 スポーツ健康科学部 教授
委員	高山 浩久	(公財)日本障害者スポーツ協会 技術委員会 委員 東京都障害者総合スポーツセンター スポーツ支援室 地域振興担当主査
委員	高橋 春一	国立障害者リハビリテーションセンター学院 リハビリテーション体育学科 教官
委員	高畑 隆	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 社会福祉学科 教授 (社)日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会 事務局長
委員	瀬川 聖美	(社福)本郷の森 銀杏企画 施設長 (社)日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会 委員
委員	中森 邦男	(公財)日本障害者スポーツ協会 指導部 部長

## 会議開催概要

### <第1回>

日 時:平成 23 年 7 月 31 日(日) 午後 1 時～5 時

場 所:戸山サンライズ 2階 中研修室

出 席:大久保委員長、藤田委員、高山委員、高畑委員、瀬川委員、中森委員

欠 席:高橋委員

事務局:井田、長谷部

議 事

1. 調査目的の説明
2. 調査・報告手順、情報共有の仕方、作業工程の確認
3. 審議事項(調査方法、アンケート実施先、聞き取り調査先の決定方法、アンケート項目)

### <第2回>

日 時:平成 23 年 12 月 19 日(月) 午後1時 30 分～4 時 30 分

場 所:人形町区民館

出 席:大久保委員長、藤田委員、高山委員、高畑委員、瀬川委員、中森委員、高橋委員

事務局:水原、井田、長谷部

議 事

1. アンケート調査送付・回収状
2. アンケート調査集計報
3. アンケート調査結果の検証

### <第3回>

日 時:平成 24 年 2 月 24 日(金) 午後1時 30 分～4 時 30 分

場 所:人形町区民館

出 席:大久保委員長、藤田委員、高山委員、高畑委員、中森委員、高橋委員

欠 席:瀬川委員

事務局:水原、井田、鈴木

議 事

1. 報告書原案の確認、意見交換
2. 来年度事業案の検討
3. 報告書印刷までの作業工程

平成 23 年度精神障害者スポーツ実態調査委員会 報告書

発行日:平成 24 年 3 月 31 日

発行者:公益財団法人日本障害者スポーツ協会

精神障害者スポーツ実態調査研究事業  
平成23年度報告書

平成24年3月31日発行

発行 公益財団法人日本障害者スポーツ協会